

ドライバーの頑張りで予選快走も ウェットタイヤのトラブルが頻発

AUTOBACS SUPER GT 2019 SERIES
Round.2 FUJI

May 3 - 4 2019
Qualify : 9th Race : 27th

2019年、アストンマーティン・AMRヴァンテージ GT3 とともに新たなスタートを切った D'station Racing AMR だが、岡山国際サーキットでの開幕戦では、雨中のレースのなかで思わぬアクシデントに巻き込まれ、D'station Vantage GT3 に大きなダメージを受けてしまった。5月3～4日の第2戦まで時間がないなか、D'station Racing AMR は車両交換という苦渋の選択を迫られながらも、関係各所のさまざまな協力のおかげでこれを実現。第2戦に新たな D'station Vantage GT3 を間に合わせることに成功した。

迎えた第2戦の舞台は、チームの地元でもある富士スピードウェイ。5月3日の公式予選日から3万5800人もの観衆が集まり、晴天の下で午前8時50分から公式練習がスタートした。ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラから藤井誠暢へと交代しながら D'station Vantage GT3 を煮詰めていくが、1分37秒871というベストタイムで20番手でセッションを終えることになった。僅差ではあるが、ポジションとしては第1戦岡山と同様、性能調整に苦しめられている印象があった。

ただ午後の公式予選に向けて、D'station Racing AMR はセットアップを煮詰めていく。午後2時30分にスタートした公式予選 Q1 ではオリベイラの持ち前のスピードにかけ、D'station Vantage GT3 を送り出した。

オリベイラは「改良を加えて速さを引き出してくれた」とQ1で1分37秒211というベストタイムを記録。近年のGT300は強力なライバルたちのなかでQ1突破は難しい壁ではあるが、そんななか見事13番手でQ2進出を果たしてみせた。

これでQ2に繋げることに成功したが、オリベイラの頑張りには藤井も応えてみせる。D'station Vantage GT3 の良好なバランスを感じ取った藤井は、今のマシンパフォーマンスを引き出すパーフェクトとも言えるアタックを決めると、1分36秒902というベストタイムでトップに浮上した。

その後ライバルたちがタイムを記録し、D'station Vantage GT3 の順位は少しずつ下がってはいったが、現状の厳しい性能調整を考えると、望外とも言える9番手グリッドを獲得することに成功。D'station Racing AMR は明るい雰囲気です予選日を締めくくることがになった。

明けて5月4日の決勝日は、朝から晴天となり、5万6000人ものファンが訪れ、午後2時30分からのスタートに向けて盛り上がりは最高潮に達していた。しかし、レース直前のウォームアップ走行からポツポツと雨が舞い始め、スターティンググリッドから雨は本降りとなる。

ただ、第1戦岡山ではウェットのなかで素晴らしいスピードをみせていた D'station Vantage GT3 にとっては、恵みの雨となる可能性もあっ

た。スタートドライバーを務めた藤井は、スタート直後から D'station Vantage GT3 をきっちりと9番手につけ、前を追っていく。しかし9周目、トヨペット 100R コーナーで藤井はリヤからマシンが壊れたかのような振動を感じ取った。冷静にコースに D'station Vantage GT3 を留めた藤井はビットに戻るが、左リヤタイヤが剥離していることが発見される。チームはタイヤを換え、ふたたび D'station Vantage GT3 をコースに戻した。

しかし、ストレートで藤井はふたたび振動を感じる。またも左リヤタイヤのトラブルが起きたのだ。再度ビットインしたため順位は最下位に落ち、勝負権を失ってしまった。その後、オリベイラに交代してからも三たび左リヤタイヤが剥離。ガレージに戻されチェックを受けたが、マシンのトラブルではなかった。

その頃には雨も止み、コース上はドライに転じていたため、D'station Vantage GT3 はスリックタイヤを履きコースへ。上位はもう見えない周回差がついてしまったが、今後のレースも考え、オリベイラから藤井へ交代しながら、データ収集に徹し86周をこなしチェッカー。順位は27位だった。

なぜ左リヤのウェットタイヤにトラブルが起きたか、まだ原因は分からない。ドライでの手ごたえは感じつつも、次戦に向け大きな課題を残した第2戦となった。

PARTNERS



NEXUS GROUP



Q U O T E



Satoshi Hoshino Team Principal

残念な結果になってしまいましたね。ウエットタイヤのトラブルは車両の特性がひょっとすると関係しているのかもしれませんが、いずれにしろしっかりと検証しなければいけません。次戦鈴鹿まではそれほど時間がありますが、全力で取り組んでいきたいと思います。公式予選まではドライバーふたりが本当に頑張ってくれて、いい順位につけていただけて、レースの結果はとても残念です。レースのなかでも課題が見つかりましたし、アストンマーティン・ヴァンテージGT3の特性をさらに把握していきたいと思います。応援ありがとうございました。



Kazuhiro Sasaki General Manager

ウエットタイヤのトラブルが頻発してしまいました。原因がまだ特定できていないですが、本当に不思議ですね。ちょっと困った状態になってしまいました。武田監督が原因を探っていくとは言ってくれていますが、タイヤ内圧の問題ではないようなので……。なかなか無いトラブルですね。ドライタイヤに問題がないだけにますます分かりません。これではレースになりませんから。公式予選まではいいパフォーマンスをみせてくれていましたし、期待が大きかっただけに残念です。僕たちにはどうにもできませんし、次戦雨が降ってしまったらと思うと不安が大きいです。



Toshiaki Takeda Team Director

レースはウエットになりましたが、雨のなかドライバーは頑張ってくれましたが、タイヤトラブルが3回も起きってしまう結果になってしまいました。今後に向けて何が原因だったのかを、しっかり究明しなければいけないと思っています。ドライになってからは今後へのデータ取りに専念しましたが、多くのことを得られたのは良かったです。今回の参戦までの間に星野オーナーをはじめ、スーパー耐久チームも多くの協力をしてくれましたし、皆さんの思いに報いるために結果を出したいと思っていましたが、アクシデントで実現できなかったのは残念です。次戦に向け頑張ります。



Tomonobu Fujii Driver

今回、厳しいレースを予想してはいましたが、公式予選では想像以上にパフォーマンスが高かったです。予選Q2でも思った以上にタイムがでましたし、決勝レースはウエットになったので、チャンスがあるかと期待していました。ただ、序盤にタイヤのトラブルがあり、勝負権を失ってしまいました。原因はまだ分かりませんが……。その後のレースではドライコンディションでタイヤを試し、いい部分も見えてきましたし、課題も見つかりました。レース距離を走ることができたのも大きいです。今回見つけられたことを次戦に活かしていきたいと思っています。



João Paulo de Oliveira Driver

今日のレースではさまざまな課題が見つかったと思うんだ。特に今回はウエットタイヤのトラブルも含めたタイヤの部分が多いね。公式予選では悪くなかったし、いいペースを見つけることができた。ただレースではライバルに対して遅れをとっていた部分が大きかった。もっとバランスも追求しなければいけないし、ペース向上が大きな課題だと思う。より理解を深めるためにハードワークをこなさなければいけないし、レースでは底打ちもあったから、タイヤのトラブルに繋がっているかもしれない。今回のレースは残念だったけれど、次戦も頑張っていきたい。

Official Website : <http://dstation-racing.jp> Twitter : @dstation_racing Facebook : <http://fb.me/DstationRacing>

PARTNERS



NEXUS GROUP

